

外観



5F建の建物内では、広大な学生ロビーを中心に、多様な教室、学びや活動を支援するサポートセンター、さらに、アクティブラーニングの展開など多目的に活用されるマルチスペースが有機的に配置されている。

中央3F 男性トイレ



中央3Fトイレの内装は、白を基調とした清潔感のある空間。洗面コーナーの前壁面にアクセントとしてボーダータイルを用いている。荷物配慮として、洗面器と洗面器の間にはフックを取り付けている。

中央3F 女性トイレ



水じまいのよい壁掛ハイバック洗面器を採用。隣の人の視線が気にならないように個別鏡とした。防犯配慮として、ブースの壁面と扉は天井まで立ち上げ、外側からも開閉できるレスキューオープン仕様とした。

中央3F トイレ入口



建物全体で統一されたオリジナルデザインのピクトサインを掲示。初めての利用者にもわかりやすいよう配慮し、トイレ入口中央に配置図を掲示している。

中央3F 男性トイレ



洗面器と同様に壁面にはボーダータイル、前面板には木目調ボードを使用。床の清掃性を考慮し壁掛小便器を設置。足元には尿の飛散によるにおいや、汚れを軽減するハイドロセラフロアを採用している。

中央3F 女性トイレ



床の清掃性を高めるために壁掛大便器を採用。一部に、手すり付のブースとフィッティングボード付のブースを設置することで、さまざまな利用者に対応できるように配慮。除菌クリーナーも完備している。

中央3F 女性トイレ



キャンパスアメニティの充実を図る一環としてパウダーコーナーを新設。荷物配慮としてフックを取り付けている。入口付近には、天井までの大きな全身鏡を設置し、身だしなみを確認できるように配慮している。

北側4F 女性トイレ



北側4Fトイレの内装は、赤茶色のボーダータイルを用いて、上品で落ち着いた印象の空間となっている。

北側2F 女性トイレ



北側2Fトイレの内装は、赤色を組みこんだボーダータイルが、明るく、活気あふれる印象の空間を演出している。洗面器は、丸いベッセルタイプを採用。

1F 多機能トイレ



車いす使用者やオストメイトに配慮し、RESTROOM ITEM01フラットカウンター多機能トイレバックを採用。視覚障がい者への配慮としては、触知図を掲示している。

建築概要

名 称	大谷大学 慶聞館(きょうもんかん)
所 在 地	京都市北区小山上総町
施 主	学校法人真宗大谷学園 大谷大学
設 計	株式会社日建設計
施 工	大成建設株式会社
竣 工 年 月	2016年9月(Ⅱ期工事)

水まわりの特長

<建物の特徴>
1665(寛文5)年、京都・東六条に開創された東本願寺の学寮を前身とした大谷大学は、人物の育成を目標とする「人間学」を教育・研究の根幹とし、広く一般社会へ開かれた大学へと発展を続けている。京都市北区にある本部キャンパスでは、2011年から、教育・研究力のより一層の充実を図り、学生が主体的に学ぶことができる新しい環境づくりを目指し、新教室棟の建築を含めた総合整備を実施。新教室棟である慶聞館(きょうもんかん)の建設は、「中央・南エリア」と「北エリア」に分けて進められており、まずは「中央・南エリア」の利用が2016年9月から開始された。2018年4月には「北エリア」を含め慶聞館の全エリアがグランドオープンする予定となっている。

<水まわりの特長>
大谷大学の施設担当者は、TOTO主催の大学トイレセミナーを聴講し、最新設備をテクニカルセンターで見学。また、さまざまな大学トイレを視察、ヒアリングを行い情報を入手、そこからのアドバイスを受けながら、荷物配慮、防犯対策、設備などさまざまな事項を検討した。その結果を踏まえ、内装はフロアごとに変化を付け、さまざまな印象のトイレ空間を演出。衛生器具は、床の清掃性のよさを評価し、基本仕様として壁付の商品を選定。節水器具を取り入れるなど、新たな教育棟にふさわしいトイレ環境を実現した。